

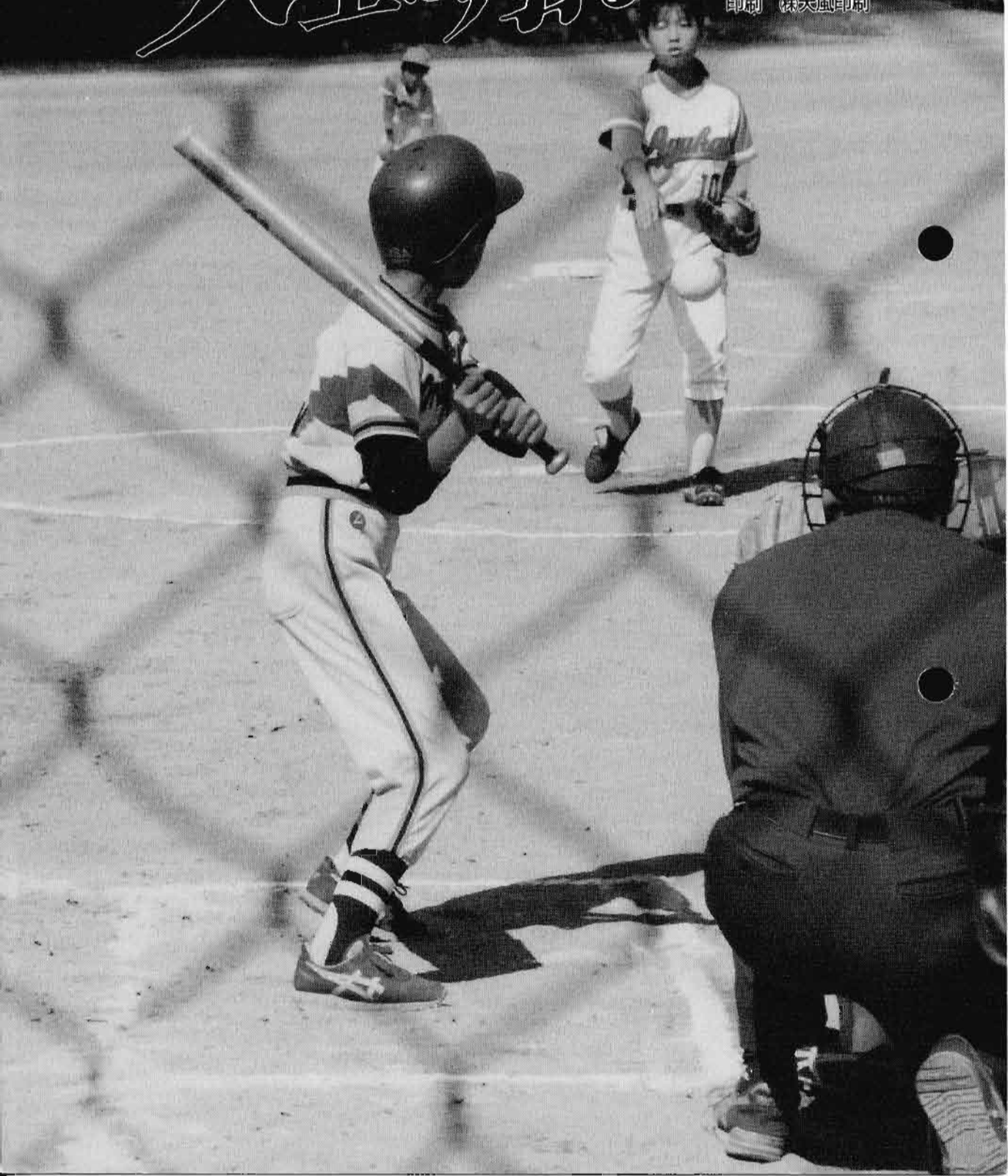
山形県スポーツ少年団

平成2年3月26日発行

No. 6

大空に翔る

発行
(財)山形県体育協会
山形県スポーツ少年団
山形市松波2-8-1
☎(0236)30-2894
印刷 株式会社印刷





リーダーを育てるために

第2弾

スポーツ 少年団で 学んだこと

● 本県は全小・中学生の団員加入率は全国第一位。指導者数も五千名を大幅に超え、その数は全国第七位を示すなど全国に誇る実績を挙げている。しかし、団活動の良否に大きな影響を与える中学生以上のリーダーの年代、特に、高校生以上のリーダーが全国に比して極めて少ない状況となっている。そこで、活動の一層の充実と発展を目指してリーダーの育成の意義について述べてみたい。



リーダーを育てよう

フレンドシップスポーツ少年団

団長 海老名 清 二

小学校の卒業期を迎えると六年生団員を送別する卒団式が、方々の単位団で催されていくと聞く。団を去って行く子供たち、手塩に掛けて育てた団員を送る指導者にとつても、何とも寂しい時期である。確かに、中学生ともなると部活動等の係わりから、小学生団員と同様に活動を続けることが難しい面を持っている。今、地域活動に於いても、子供たちは異年齢と接する機会が少なく、素敵な兄貴や頼りがいのある先輩と巡り会う機

会は求め難いものとなつていく。また、地域には中高生が参加できる地域行事は殆ど無いに等しく、小学生以後は地域社会とは掛け離れた生活を送ることになり、彼らが社会人として地域に戻る頃には、そこには溶け込み難いギャップができてしまうことになる。スポーツ少年団の特徴は、同世代を超えた年齢差の大きい活動を推進していることにある。この意味に於いても、中高生等を団活動に引き込みながらリーダーを育成する

ことは重要な意味を持つものと言える。

リーダー研修

グループ活動には必ずリーダーが存在する。同年代同志でも、ましてや活動が発展すればするほどリーダーの存在は大きくなり、リーダーの資質の良否が団活動に大きな影響を及ぼすものである。リーダー資質の向上を願つて、県や日本スポーツ少年団は、リーダーの年齢に応じて

ジュニア、シニアリーダースクールを開設している。単位団や市町村では、計画的にリーダースクールへ派遣し、団活動の必要な知識・技術を身につけさせるとともに、他団体との情報交換や交流を通して、スポーツ分野だけでなく幅広いリーダーを育成して欲しいものである。

リーダーの役割

リーダーは指導者の協力者であり、団員達の調整役・まとめ役でもあり、企画力・行動力を備えた活動の推進役である。更には、将来の指導者として期待される団員でもある。スポーツは、今後ますますその領域を広げ、世代や地

若い力の結束を

現在は、本県には県段階のリーダー組織はない。市町村や支部段階の身近なところでリーダー間の連携を深めるための体制づくりが望まれる。そして、県全体の組織が誕生し、若い力が結束する時、本県独自のリーダーの国際交流も実現することだろう。

リーダー会について

リーダー会長 佐藤 むつみ

吉島地区のリーダー会は、昭和六十二年度によく組織され現在十二名がおります。リーダーは地域で活動している人のほか、今後地域に帰って活動する人については、指導者は勿論、地域の方々からも期待されています。構成は高校生一名、大学・短大生四名、社会人七名という構成で



▲広報紙の編集にも熱が入って

子が多いこともあって、いつも集まるとワイワイガヤガヤとうるさ型

リダー会では女子が多いこともあって、いつも集まるとワイワイガヤガヤとうるさ型

リダー会では女子が多いこともあって、いつも集まるとワイワイガヤガヤとうるさ型

リダー会では女子が多いこともあって、いつも集まるとワイワイガヤガヤとうるさ型

あり、男女別では男子四名女子八名であり、その内日独同時交流派遣者一名(女子)が入っており将来指導者として大いに期待されています。

活動は、主として地区内五団の合同事業への参加、指導、広報紙の発行等が主な内容ですが、各団の活動には積極的に出席し子供たちの良きリーダーとして活躍しています。

吉島地区には五つのスポーツ少年団(剣道・柔道・バレー・卓球・若草)があり、五つの少年団をまとめる育成

本部があります。特に育成本部で行う合同事業としては、四月の入団式に始まり、五月に体力テスト会、七月には最も大きな事業である世田谷との交流事業があります。十二月にはスポーツ交流会、一月には新年会、三月には修了式があります。

交流事業は東京の世田谷区スポーツ少年団と交流会を行い、こちらが行くまた受け入れ、夏・冬というように交互に行っています。その中で川西町の花であるダリヤ植付や山形名物の芋煮会等を世田谷で行い、子供たちの交流から地域交流の発展をはかるうとしていいます。その中で育つたリーダーも世田谷のリーダーとの交流の中からお互いの良さを学んでいます。

ですが、いつもスポーツ少年団のことを考え、子供たちの良き姉・兄として活動していきたいと思っています。

結婚が間近い人や、近き將



▲リーダー会でのひとこま

来結婚をするかも知れない人も、できれば結婚後もスポーツ少年団の指導者として続けていければと願っています。

また、後輩が少しでも多く育つてくれるようがんばらなくてはと考えています。

今後ともよろしくお願います。

当時小学生だった私にとっしての意識の強さに大きな刺激を受けたのです。

しかし、いざ戻って来てみると、リーダーとしての意識を高められる様な活動の機会や仲間はなく、結局はせっかくの刺激もどこかへ消えてしまっていたのです。

今回のリーダー会発足は、私がこのようなためリーダーだったから言うのではありませんが、リーダーが本当のリーダーとして十分に意識を高め活動することができるとしても大切な、とても良い機会だと思っています。各少年団そのものの活動、少年団間の交流等、これから更に活発に行われるためにも、リーダー層の充実が絶対に必要なことです。

この様な面からみても、リーダー会にはあらゆる期待がかかると思いますが、それにかたえられる可能性は十分に持っている、と強く感じています。

リーダー会に期待する

河北卓球リーダー 吉田香織



今年もいろいろな交流がありました。みなさんも積極的に参加しましょうね。

友好交流



南国につどう友情の輪

(全国スポーツ少年大会)

青葉剣道スポーツ少年団

団員 金子政文(川西町)



▲みんなが燃えたイカダ作り

この大会に参加して、とても良かったと思いました。それは、全国から集まった人たちと友達になれたことと、いろいろな活動の中で、多くの学ぶことがあったことです。まず、友達のことから書くことにします。

私の班は、六分団ある内の三分団で、十八班中第七班です。この七班は、私が一番長

になってしまいました。まあこれはいたしかたないことです。この七班は、北は北海道から南は沖縄までの人たちの集まりでした。

この第七班は、最初は、みんな警戒して、あまりしゃべりませんでした。しかし、これではいけないと思い、私から積極的に、話しかけました。

やはり、ここは一つ年上ということで、みんなに、話しかければ、と思ったからです。それが効じて、みんな話し合

うようになりました。今思えば、他の班より、第七班は、みんな和気あいあい

としていたのではないかと思います。しかし、和気あいあ

いすぎて、ちょっと締めらな

かった所が欠点な班でした。でも、こんな班でも、やる時はちゃんとする班でした。だから、いろいろな活動をする時は、みんな一所懸命でした。特に私も含めてみんなが

紹介自慢

心身ともにたくましい子供に

東根ハンドボールスポーツ少年団(東根市)

指導者 三浦通夫

東根ハンドボールスポーツ少年団は、昭和六十二年八月に結成された、まだ歴史の浅いスポーツ少年団である。それまで二年間は、クラブに入っている児童の中で意欲の高い子供たちが愛好会的なものを作り、近くの学校と練習試合を行っていたが、大会に出場してみたいという強い希望が出て、正式に少年団を結成することになった。一年目は男子だけの結成だったが、二年目には、女子の部も結成され、より活動が盛んになった。

わがスポーツ少年団のモットーは「何事にも一生懸命にそして、礼儀正しく」である。概して、指導者や大人は子供に「やる気を出す」ことを強く求めがちであるが、練習が楽しく、しかも、一人一人に





▲最高だった友情の輪

燃えたのは、五日目のイカダ造りでした。イカダ造りは、本日は三日目に行く予定でしたが、台風のため五日目になったわけです。まあそんなことはどうでもいいとして、イカダ造りのことを書きます。イカダ造りは、最初、長い青竹を土台にし、それから、短い青竹を組んで、ひもでがつちりとしぼるのです。これはなかなか力がいり、けっこう大変でした。その後、

川に浮かべて、十人ぐらいで乗り、五人でこぎました。あの浮かんで、こいで進む感じは、なんともいえないものでした。それで、その後、職員十七人全員で、イカダに乗りました。こわれると

思ったのですが、全然こわれなく、もうえつちらおつちらとばかりに、下っていきまします。これは本当に楽しかった。これが、一番のいい思い出です。このイカダ造りはとてもいい勉強になりました。それは、みんなで協力してやれば、なんでも出るといふことです。

東北ブロック少年大会を終えて

日光卓球スポーツ少年団

団員 丸山典子(鶴岡市)

私は今、山形県鶴岡市にある、鶴岡四中の二年生です。私は、日光卓球の、ジュニアリーダーとして、参加した訳ですが、山形県からは、九名で、その中の八人は男で、一人が女の私と決定してしまつて、すごく不安でした。鶴岡の駅から、瀬峰の駅ま

で、だいたい七時間ぐらいかかるのに、その間、何をしたらいいんだろーと、考えている時間が多かった気がします。だけど、実際一緒にいってみて、少しずつだけ、話したり、笑ったりすることができました。

を重ねるようである。

卒業文集に忘れられない思い出としてスポーツ少年団の活動を書く子供、中学校に進み再びハンドボール部で活躍する子供、そんな姿を見るに

剣道を通じて

内郷スポーツ少年団(松山町)

指導者 長谷川 伸

内郷スポーツ少年団は、松山町内郷小学校の三年生以上を対象とした、四つの種目で構成されたスポーツ団体である。種目には野球、ミニバスケットボール、スキー、剣道があり七十五名の団員は仲間づくりと、競技力の向上を目指し活動している。父兄の方々は、育成会員として学校あるいは種目間の連携・理解にあたり、各種目においては保護者会を設け活動のバック

アップをしている。

私が剣道の指導者となって五年、その中で昭和六十三年の山形県少年少女スポーツ交流大会(県大会)のブロック優勝や、平田・松山少年剣道大会での敗戦は、試合の勝ち負けの他にも、とても思い出深いものがある。その時の様子などについて団員が書いてくれた作文の中から紹介したい。

〔前略〕平田・松山の剣道大会では接戦の末敗れてしまった。その時はその試合にかけていたのでとてもよかったです。だからますます練習して一週間後の県大会で、優勝できたのだと思う。今、剣道をしていて良かったと思うことは、まず勝負に勝つうれしさと負けた時のくやしさが



▲勝利のよろこびで一杯



瀬峯駅にいたら、そこからバスで一時間ぐらいの所に目的地の花山少年自然の家があるんだけど、ガイドのねーさんが、花山のことを、いろいろと教えてくれたし、ねむくなるよーな曲を流してくれて、すごくリラックスできました。

向こうのほうについて、入所した後に、すぐに開会式が行われ、そこでの、『東北大会に臨んで』という内容の講話の中からいくつかあげてみると、私たち子供のおかれている立場のこと、最近の子供のことなど、たくさんおはなしをして下さってとてもためになりました。

今、私たちの住んでいる世の中は、とても便利になり、着るもの、食べるもの、住む家なども豊かになり、毎日の生活の中でも、インスタントがふえてきて、使い捨ての時代になってしまいました。

昔の人は、とつても苦労して生きてきたんだなあと、しみじみ、そう思いました。

花や野菜は、種をまいた時から、それぞれの時期に合わ

せて、肥料などが与えられ、自然の光が与えられて育つてゆくのです。

そして人間も同じよーに、立派な大人になるために、肥料や水、太陽にあたいするものが必要だと思います。

だから、今の私たちには欠かすことのできない、遊びやスポーツも大事だと思います。たしかに、勉強も必要ですが、スポーツや遊びはもっと大切だと思います。

スポーツは、丈夫な体をつくり、そして、心を豊かにしてくれます。

私は、スポーツを通して、

友達の間、指導者や、リーダーの方達に体で教えてもら

い、それを一生懸命習いました。

一日目の夜は、交歓会で顔合わせをして、二日目は、運動適性テストや、野外炊飯、焼板づくり、そして夜間ハイキング、いわゆる肝だめし、三日目は、二度目の運動適性テスト、オリエンテーリング

グ・キャンドルサーピスは最高でした。もう、ライブなみでした。

オリエンテーリングでは、山というよりガケを、よじのぼり、根じようだして、がんばったので、体力もついたので良かったです。

一言でいえば、楽しかったし少し、成長したような気がします。

県スポーツ少年大会を開催して

羽黒町教育委員会

本間 立

「恵み豊かな自然にひたり、友と語れ、山を駆けよ」をテーマに、七月二十六日から二十八日まで羽黒国民休暇村キャンプ場を主会場に県内各地の

団員、指導者約百五十名が集い、交流を深め合った。

活動プログラム作成にあたっては、開催地の自然、文化を生かすこと、子供たちに

交流の場で団員と共に学ぶ

清川スポーツ少年団

五十八年秋、野球、ソフトボール、スキートの複合スポーツとして清川スポーツ少年団は発足した。

四月からソフト、十一月からは全員スキーにと、四年生以上約五十名が団員として活動している。

練習は野球週五日、ソフトが週二日、河川グラウンドを借りて練習に励んでいる。

冬季間のスキーは週五日町営清川スキー場と最上川スキー場で、団員の外に中学生や小学生の低学年を含めて、合同練習をしている。

指導の方針としては、技術的な事よりも子供たちのチームワークと、指導者も含めた母集団の和に重点をおいている。大切な事は挨拶ができる

痛いほど良くわかったということだ。もう一つは剣道をすることだ。友達が増えた。友達との協力ができるということだ。団体戦にチームワークはかせないものだった。また、剣道はただのスポーツではない。

指導者 成 沢 辰 男

事。ありがたうを言える事。そして我慢強い子になれと指導してきた。最近是个別的に人を思いやる心がでてきた様に思う。

野球、ソフト、スキーも、県大会レベルでも上位に入賞できるようになり、私共指導者も喜んでい



▲ユニークな体験実習

とって魅力ある内容にするこ
との二点に特に留意した。

主な活動内容は次の通り。

一日目……歓迎の夕べで山伏
による宝冠のつけ方とワラ
ジのはき方の講習。地元ス
ポーツ民謡会による出羽三
山音頭の講習。

二日目……ワラジと宝冠を身

につけて「芭蕉ウォークラ
リー」——荒沢寺で座禅の
体験。随神門から山頂まで
二千四百四十六段の石段を

登りながらのウォークラ
リー。地元講師の指導によ

る俳句教室。歴史博物館の
奥の細道「文学展」見学。

チャレンジタイム（絶叫コ
ンテスト・ほら貝吹きに挑

戦・地元ウエイトリフティ
ングススポーツ少年団の真演

西独スポーツユースを迎えて

西村山支部長

和田多聞

西ドイツスポーツ少年団の
交流受入が八年ぶりに西村山
地区に決定以来、この豊かな
自然環境のもと、真心で接し、
手造りの交流をのスコーガン

に、数回にわたるミーテング
を重ね一市四町挙げての交流
がスタートしました。

七月三十日に到着。第一印
象は大変陽気な団員で私共は

と挑戦・俄かつぎ・紅白綱
引き)。ジンギスカンパー
ティー。

三日目……月山ビクターセン
ターでスライドの視聴と展
示コーナーの見学。俳句コ
ンテスト。——百六十二作

の中から最優秀（芭蕉賞）
に輝いた三作

宝冠に 汗が流れる 羽黒山
日の光 うけて輝く 滝の水

雲の海 島海山が きれいな

また、大会の特徴としては、
文化的活動を多く盛り込んだ
こととスポーツ少年団関係係
外の民間の方々からの協力を
得たことの二つをあげること
ができる。

本大会が益々魅力あるもの
として発展していくことを期
待してやまない。



▲宝冠を身につけウォークラリーへ

大いに励まされ、この一週間
の成功を心に期したものです。

身振り、手振りが始まった
オリエンテーション。民宿家

庭の方も、すでに、不安を通
り越し、団員との一週間をよ

り有意義なものにという期待
感に溢れておりました。

一夜が明け、初めて取り組
む弓道に一喜一憂し、紅染で

は思い思いのハンカチを染め
あげ、紅花資料館での茶道体

験では茶法、正座の難しさに
目を白黒させていたそうです。

夜の地元スポーツ少年団員と
の歓迎の夕べはゲームあり、
ダンスありで大変な盛り上がり

各種大会の結果は、新聞や
テレビ等で報じられ、地元の
方々も注目してくれるように
なり、その上スポーツ少年団

育成会が発行する「スポ少だ
より」で育成会員、賛助会員

の方々に随時報告をしている。

現在、我々清川スポ少が順
調に活動できるのも、野球で

は発足以来現在まで、鶴岡市
スポーツ少年団野球部会に加

盟させて頂き、ソフトボール
は遠く山形や上山のスポ少は

じめ、現在は鮎貝スポ少と交
流を深め、個人的に交通等も

しているおかげと思う。

大輪の花を咲かせたい

大蔵村りんどうスポーツ少年団（大蔵村）

本団は（団員数四十名、う
ち中学生団員七名、指導者数

八名）大蔵村スポーツ少年団
の中でも最も古く、他の団の

模範となるべく活動を展開し
ています。

主なスポーツ活動は、剣道
ですが一種目のみという偏り

を防ぐため空カン拾い、道路
清掃等の奉仕活動、仲間意識

協同生活を培かうため二泊三
日のキャンプ等の野外活動な
いですが、毎年七月に大蔵村

スキーもまた、湯殿山をは
じめ羽黒、三瀬、松山と庄内
各地のスポ少からこれまで温

かい励ましや交流の場を持っ
て頂き心から感謝している。

また、本町教育委員会、公
民館のバックアップ、それに

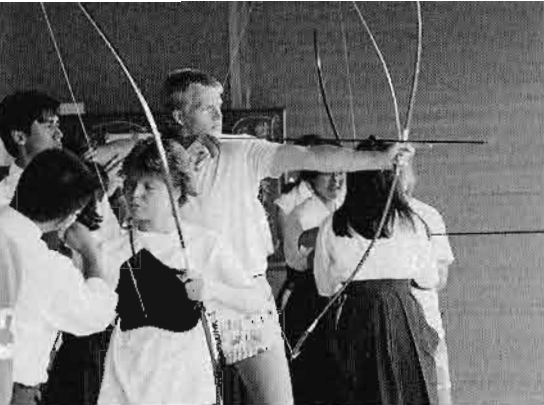
何よりも心強いのは、学校が
全面的に協力してくださる事

です。

本年も更に他団との交流を
深め、子供たちには目標を高

く持たせ、広い視野で周囲が
見られる子供に育つよう、

我々指導者も共に学んでいく
つもりです。



▲初めてなのになかなか決っています

りとなりました。

三日目は万年雪で名高い、名峰月山登山、高山植物を観察しながら、山頂にて民泊家庭造りのおにぎりに舌鼓を打ち、夜はペンションにて待望のパーベキューパーティー、自然を満喫した一日でした。

四日目は神通峡を散策し、魚とりに挑戦したのですが、残念ながら一匹も獲れなかつたとのこと。夜は地元高校生と『青少年と余暇』をテーマに討論会が持たれ、活発な議論の中で大きなインパクトを与えてくれたと思います。

五日目、大沼の浮島を見学しASAHI自然観を散策の後、二度目のパーベキュー

パーティー、午後からは寒河江市民プールにて古式泳法を見学、見事な技に大変驚き、熱心に指導を受けてました。

六日目は終日民泊先の皆さんの親身に勝る様々な企画は西ドイツ団員達にとり生涯に残る楽しいことばかりであつたと思います。

夜、いよいよサヨナラパーティー、一週間の間にすつかり民泊先の家族の一員となつたような睦まじい様子を見る時、目頭が熱くなるばかりでした。両国のアトラクションなどで楽しいパーティーは時間の経つのも忘れ、大いに盛り上がりました。

最終日、多くの思い出と、貴重な体験を胸にした西ドイツ団員と、万感を胸に別れを

惜しむ民泊先家族、そして関係者といつの日かの再会を約束し、明るい笑顔で彼等は次の交流地へと旅立った。この西村山地区に国際交流という貴重な一ページを残して。

本交流を通し、事務局はじめ関係者の綿密な計画、実行もして何よりも民泊先の皆さんの力強いご後援により、確かな日独相互理解の中から、心の交流ができたものと確信致します。また、特筆すべきことは、一週間のビデオを収録編集し立派な記録を完成させ、西ドイツ団員そして民泊家庭の皆さんにプレゼントしてくれた事務局に心より敬意を表し、多くの方々に深く感謝を申し上げたいと思います。

もうひとつの故郷「西ドイツ」

吉島パレーポールスポーツ少年団

団員 内山 恭子(川西町)

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

西ドイツへの出発、大きな希望と意欲、そして少しの不安、私にとって日本を離れ、異国の土地に行くということ、は、これまで考えもつかない

剣友会と合同自費開催している大蔵村錬成大会が近づくと、週四回の強化練習を実施し来るべき大会に備えています。

指導方法については、小学生の知的面、情動面、社会的行動面、運動面など心理的基礎をしっかりと把握した上で個々の能力に応じた班ごとの指導方法を採用しています。

このことは団員達にいつ大輪の花を咲かせてやるかの重要なポイントだと思われ、また、団員の特性を知るために母集団と指導者間との話し合える場を設定することで、

スポーツを楽しむ子ども

金山スポーツ少年団

指導者 鈴木 和雄

金山スポーツ少年団が複合スポーツ少年団として、登録して以来十年。いろいろな種目に親しめるよう指導している。団員は、三年生以上百六十名、指導者二十名を数える大世帯である。

本団には、クロスカントリースキー、アルペンスキー、野球、パレーポール、バスケットボール、陸上の各部があり、

校に通っており、学校との連携を密にして、体力作り、健康づくりのために役立てよう

とがんばっている。また、中

学、高校に入っても続くよう

お互いの意思疎通が図られ

さに一石二鳥です。今後も続け

け益々良い団活動を展開して

いきます。

「みがくぞ」「学ぶぞ」「負けないぞ」を合言葉に!!



▲これからいただきます



▲言葉も違うけどみんなうちとけて

か。出発の日が近づくにつれ不安が大きくなっていったものです。とにかく一人でも多くの人と言葉を交わそう。自分の知っている単語をならべてチャレンジしてみようと書いていました。

いざ西ドイツへ到着。最初は頭で考えてから口に出して話していたけれどそのうちとてにかく思ったらず口に出すの精神でやってみました。西ドイツの人達も私が少しでも

わからぬ顔をすると、ゆくり聞き取れるように話してくれたり、似たような意味の単語をいくつかいってくれたり、とても親切でした。

わがまちの指導者



温海ヨットスポーツ少年団
指導員 木津美加子

海で遊ぶ……。と言えば、泳ぐ、潜る、貝を拾う。そんな遊びを想像させる。しかし、ヨットスポーツ少年団の団員たちは、彼ら自身がヨットに乗ってセーリングしている姿が浮かぶでしょう。

レース中、何艇もの艇との駆け引き、逃げ切りか、自分の権利を主張するべきか、その時々で自分で判断し、そしてゴール。そのレースを乗り切ることが、彼らにとって大きな成長だと思えます。

小学4年生から、6年生までのジュニアたちが、プラスチックでできた箱型のヨットに一人で乗り込み、動力といえば、三角形のセール。初めての子は、大概は、舵をぎゅちりと握りしめ、指が白くなっているのかわかる。「独り」ということが彼らにとって新鮮で、それをのりきることが成長につながる。

海という大自然をバックに彼らは、真っ黒に日焼けた顔に、風と波飛沫を受け、時々緊張で歯をカタカタとさせながら出港していく団員達を、私は見守り続けた。



朝日柔道スポーツ少年団
指導者 和田 一則

彼は、中学時代から柔道を始め、接骨院を開業する傍ら昭和54年に鈴木指導員（現本部長）と共に少年柔道愛好会を作り、昭和56年に現在の少年団を結成、以来地域スポーツ少年団の指導者として活躍しています。

また彼は、『相手の気持ちの分かる子供』『礼儀正しい子供』の二つをモットーに日々の指導に頑張っています。

そして、子供たちはのびのびとスポーツに親しみ、県大会では女子の部がベスト8に入るなど、数々の好成績を残しています。

更に柔道の指導だけでなく、母集団とのいろいろな行事へ積極的に参加し、団員の健全育成にも努力する素晴らしい指導者です。

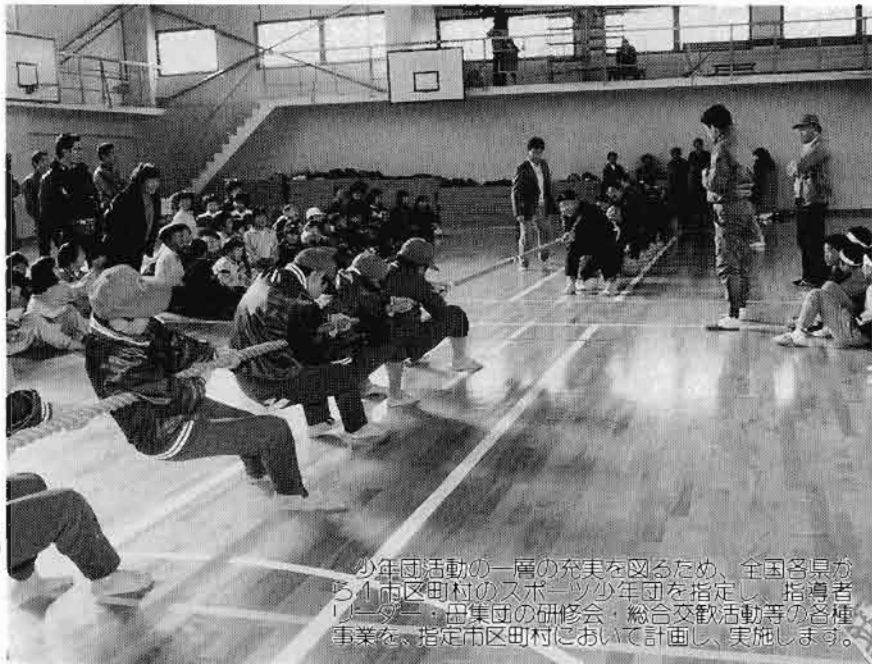
また、ある人が日本と西ドイツは、戦争で敗けたという共通点を持つ国民である。だから、戦後、日本人もドイツ人も一生懸命働き、国を建てなおした。だが、日本人は、大切なものに気づくのがドイツ人よりも少し遅いようだ。と言っていました。それは余暇です。たしかに日本人は世界的にみても働きすぎです。たとえ休みがあってもそれを上手に使えないような気がします。これも西ドイツに行くと気付いた一つです。

か地域と一体化しているようでした。勝つスポーツではなくもつとあったかいスポーツをしているようでした。約二十日間、たくさん貴重な体験をしました。ドイツの少年団活動を見て、日常生活異国で、あたたかい西ドイツの家族とのふれあい、本当によかった。うれしかった。この体験を少年団活動の場でも少年団活動を盛り上げる一員になれたらいいなと思っています。頑張りたいです。

に、将来を考えての練習、トレーニングをしようとして試みている。特に、個人競技であるクロスカントリースキーについては、中学、高校で全国をめざせるようにとの考えで指導している。平成二年一月の県中学スキー大会で、金山中がリレー優勝をかざったが、メンバー三人が本団の出身者であった。三人とも、団体指定優秀選手であり、高校に進学しても、スキーを続けていくようである。

わたくし、スポーツが楽しめるような人間を育てていくのが、本団指導者の願いである。スポーツの良さをみんなに広げ、自分の持つ可能性にチャレンジしていく団員を育てようと努力しているところである。

活動を支える母集団も活発であり、学校との協力関係も良好である。そういうしつかりした基盤の上で、さらに、発展した活動をしていこうとはりきつているところである。



少年団活動の一層の充実を図るため、全国各県から1市2区4町村のスポーツ少年団を指定し、指導者1人1母集団、母集団の研修会・総合交歓活動等の各種事業を、指定市区町村において計画し、実施します。

学習コーナー

モデル事業の取り組みについて

大石田町スポーツ少年団本部

大石田スポーツ少年団の歴史は古く昭和三十八年に亀井田武道スポーツ少年団が最初に設立以来、今日に至ってもクラブが延長して出来たスポーツ少年団でした。活動内容もあまり競技種目にこだわらず、野外活動や地区の奉仕活動が主だったようです。学校スポーツ・地域スポーツが本格的に登場したのは、昭和五十三年に設立した大石田キンダースポーツ少年団(野球)からです。以後、誠剣友会スポーツ少年団(剣道)・大行田柔道スポーツ少年団(サッカ)・無心道場スポーツ少年団(剣道)・駒籠スポーツ少年団(複合)・横山スポーツ少年団(複合)・田沢スポーツ少年団(複合)と現在八団で団員二百九十二名・指導者四十六名で大石田スポーツ少年団本部が構成されています。本部長には、北村山支部の支部長も兼ねて活躍している小山進本部長を中心に、本来のスポーツ少年団の在り方を探るため活動を続けています。

また、昭和六十一年七月二十三日(水)七月二十七日(日)の五日間、第十三回日独スポーツ少年団同時交流事業を受け入れ、西ドイツのスポーツユーゲントと相互交歓を行い、国際交流の輪を広げられました。この日独スポーツ少年団同時交流事業を受け入れることによりスポーツ少年団本部の結束がより一層深まったような気がします。足かけ半年の準備期間で指導者・母集団また各関係機関のご協力ですべての準備が整いました。八月・十月・翌年の二月に実施して、おもに母集団へスポーツ少年団の育成について

から団員の家へホームステイを通して交流出来た事、スポーツ活動を通して親睦が深められた事は、大石田町スポーツ少年団本部にとって大きな宝となっています。

それから二年、昭和六十三年に県スポーツ少年団よりモデル少年団育成事業の話があり、スポーツ本部員会議でも賛否両論あつたのですが、日独スポーツ交流以来、本部の組織も序々に軌道に乗り始めた頃だったので、モデル事業を実施して、指導者・母集団の研修会をより一層充実させ、認識を深めてもらい、また団員たちには、他のスポーツ少年団との集いを通してスポーツ交流を行い親睦を図ろうと取り組みました。

事業の取り組み方としては指導者・母集団研修会を年に三回、そして総合交歓会として、スポーツ少年団の集いを計画しました。

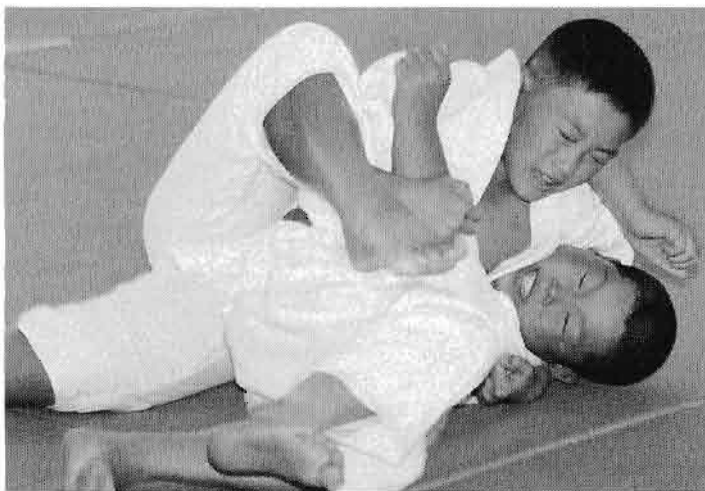
指導者・母集団研修会は、八月・十月・翌年の二月に実施して、おもに母集団へスポーツ少年団の育成について

とスポーツ少年団の在り方を中心に講師を招いて講義を行いました。というのは、本部員会議の中で、指導者と母集団のスポーツ少年団に対する意識が若干違っていることがあげられていました。そういう事をふまえて八月・十月の二回研修会を実施しました。

「大石田町スポーツ少年団団員の集い」として、町の全団員を対象にスポーツ交流会を実施しました。内容としては、開会行事の中で、指導者及び母集団で功労のあった者に功労賞団員で特にまじめに努力した者に努力賞を受賞しました。この賞は、各団ごとに若干名を推薦してもらい、本部員会議の承認で決定するものです。開会行事が終わると、各スポーツ少年団から自分達の団の紹介をしてもらいました。様々な趣向を凝らしての紹介

町内小中学校長を混じえての研修会を実施しました。大石田町のスポーツ少年団の活動場所は、ほとんどが学校のグラウンドか体育館で行われています。本来は、スポーツ少年団と学校は関係がないと言われていますが、やはり学校側からも理解してもらわないと円滑な活動が出来ないと言うのも事実です。そういう点か

ら言っても学校長を混じえての研修会も大変実のある研修会になりました。総交歓会の方は、



▲ときにはこんな真剣な顔も

は各団の特長をあらわしていました。そして、インディアアカでスポーツ交流を行い、最後に団対抗の綱引きを行いました。この交流会を通して、団員の親睦が図られた事、競技種目は違っても自分達と同じ仲間が活動しているんだという意識が芽ばえた事がプラスになったように思います。



このモデル事業を二年間実施して、今後のスポーツ少年団の在り方や方向性を各団とも理解出来たのではないかと思います。スポーツ少年団活動については、まだいろんな問題がありますが、その問題を研修会を重ねて、手探り

で一つ一つ解決していくしかないと思っています。モデル事業は後一年しかありませんが事業が終わってからも、この活動は続けたいと思います。◀仲間意識も芽ばえて

大空に翔る

〈酒田市〉

白崎	隆幸	高橋	孝樹
斎藤	政由	住石	謙士
杉原	利子	長南	均
秋葉	辰巳		
秋葉	美央		
高橋	一元		
斎藤	敏正		
進藤	正文		
丸浦	一文		
三田	一藤		
池田	井本		
石梅	成弥		
大斎	藤原		
川菅	宏利		
菅太	利枝		
元木	和久		
佐藤	和亨		
五十嵐	義弘		
花岡	義一		
原堀	孝正		
田村	正義		
後藤	正秀		
成菅	昭夫		
大武	幸一		
高橋	賢喜		
佐藤	美美		
星田	正明		
池藤	一徹		
佐藤	樹		
伊吉	広		
大佐	毅		
佐藤	男		
小古	弥正		
堀堀	文夫		



<舟形町>

伊藤 寿一
石山 栄一
高橋 保美
高橋 紘一
伊藤 清美
庄司 静男
平賀 常雄

<川西町>

水見 和彦

<白鷹町>

鈴木 欣一
小形 欽也
原田 吉明
福田 文和
斎藤 安美
小関 麗子
橋本 幸夫

<金山町>

高橋 清一
阿部 昭一
柴田 進二
伊藤 孝一
柿崎 公一
松田 重信
千川 京弘
下山 正良

<平田町>

後藤 健治
石井 幸一
佐藤 由華

<長井市>

佐藤 二雄
加藤 正人
金子 正美
鈴木 啓一
桑原 正志
鈴木 功一
青木 修次
渡部 順一
河井 庄一
佐藤 勝信
小野 邦雄
佐野 惣五郎
島野 一隆
渡部 利幸
柳橋 由広

<戸沢村>

斉藤 茂陽
田中 癸
阿部 栄
秋保 茂樹
池田 貢一
丸山 秀一

<真室川町>

高橋 菊男
高橋 利一
佐藤 栄美
佐藤 光弘
三宅 光源
岸田 秀基
雄

<小国町>

三浦 博介
山口 仁一
今秀 幸一
舟山 博人
塚原 芳壽
舟山 豊年
横井 洋一

<飯豊町>

高橋 洋史
原田 みち子
伊藤 一俊
加藤 直任
小松 和浩

<米沢市>

鈴木 恒雄
今成 昌男
伊藤 章一
鈴木 清光
坂野 悦子
渡部 敬子
大塚 勝衛
卯月 文一
渡部 秀雄
加藤 惣一
佐藤 久一
遠藤 伊一
加野 村茂
加藤 晶宏
佐藤 藤力
伊藤 一男

<羽黒町>

山本 克実
山本 啓吉
伊藤 栄隆
斎藤 秀吉
金野 こづえ

<朝日村>

阿部 俊一
白鳥 忠朋
小野寺 淳子
佐藤 雅秀
渡辺 亮平
大館 修司

<南陽市>

外山 聡子
高橋 和幸
佐藤 節子
三ヶ山 涼子
鈴木 優彦
鈴木 新光
近野 亮一
朝倉 浩光
落合 幸富
安彦 弘文
星佐藤 良夫

<高島町>

正野 晶久
伊藤 朋子
長沢 正二
高橋 清一
高橋 稔

<楡引町>

遠藤 正之
鈴木 太一郎
長池 南治
成田 克哉
成田 進

<温海町>

栗田 直子
富樫 雄幸
佐藤 政剛

<余目町>

足達 祐司
今野 新一

<藤島町>

布川 靖春

<遊佐町>

伊藤 良治
阿曾 判悦
阿部 健八
斎藤 仁明
斎野

<八幡町>

羽根田 篤
大瀧 富雄
高梨 正弘
伊藤 高幸
兵藤 清彦
堀田 徹子
前田 聡子

<鶴岡市>

菅原 伝一
佐藤 政弘
佐藤 元義
佐々木 登一
村井 正威
石塚 威久
白渡 幡静
坂部 本秀
奥山 部秀
菅原 周謙
本佐 藤夫
佐藤 藤良
佐藤 藤徳
菅原 英芳
小野寺 郁規
鈴木 勝生
伊藤 樗一
富五十嵐 征
増田 敦
佐藤 志
土田 正
阿彦 匠
仲川 一
広瀬 夫

〈山辺町〉

佐藤浩子
峯田包五郎
長岡興一
江口光昭

〈中山町〉

秋葉敏之

〈西川町〉

大泉敏夫
荒木良弘
菅野正彦
黒坂好春

〈最上町〉

菅嶋正太郎
大場公美
高橋松雄

〈上市市〉

長沢雅明
北沢順子
木村仁一
高村瀨康
村山越英
舟王藤信
金藤見善
佐里坂啓
早沢豊
半鈴木正
鈴毛富
稲

〈河北町〉

柏屋年夫
古関正彦
大場義則
高梨俊昭
石川義則
後藤洋一
長谷川勝幸
野口秀一
榎場

〈天童市〉

奥山助 正
押野 実
大泉 仁
佐藤 春
武田 保
平塚 忠
總積 一
斎藤 八
阿部 正
大戸部 英
水野 剛
小松 京
大式 光
宮林 邦
細谷 高
平向 芳
柏屋 敏
新岡 秀
牧田 浩
沢日 吉
新関 義
伊沢 昭
矢萩 博
鈴木 嘉
村形 忠
秋生 博

〈寒河江〉

渡邊隆敏
洪谷石丸
今野野弘
鹿島喜代
小藤林健
工藤藤庄
佐倉倉利
柏田新
松田多
冲田喜
大沼丈
安達正
奥山佳
遠藤貞

〈村山市〉

大池聡
奥山英
笹原宏
下山正
鈴木正
森作俊
遠藤秋信
矢萩葉好
籠藤葉正
伊藤藤勝
富富櫻裕

〈東根市〉

三浦春美
高橋鉄夫
桜井国夫
植松由美
永瀬政敏
伊藤藤和
高大江公
佐藤谷光
森谷善
森高橋
仙道勝
梅津陽

〈大石田町〉

出口孝一
池田正義
青木場太
大岡橋良
高岡宏
高橋千
二藤部啓
森多待
本

〈尾花沢市〉

菅野祐賢
菅野勝人
永沢他
鎌田公
秋保
土屋公
小榎木
佐藤保
和高野
菅野文
星川修
永井敬
笹原順
高橋正
充

〈新庄市〉

半田也
柿崎聖
荻谷邦
小松男
大場讓
叶内志
西田夫
涌井政
高橋好
俊



平成元年度 指導員資格 取得者

認定指導員

〈山形市〉

進松中工井伊深鈴半秋武佐水小斎村柿武安孫志村長梅姉岡山妻阿加田鏡東海林志大近鎌安博白伊鹿大加太	藤井村藤上藤瀬木田場藤間沼藤山崎田子謙岡岡木崎崎本沼部藤中	仁俊泰富正勇知勝春俊徳泰芳郁新安克茂正孝清良征栄満順和孝毅昭祐金松八正	啓彰志二助男人一美夫秀一照男敏雄七夫茂司隆憲昭夫明治一伍逸	須和伊川佐洪荒菱西豊安大刀川中野藤形藤貝司萩藤田場部口林藤田藤部田橋瀬水藤木築田松田根藤岡	貝田藤合藤江井沼村田達川中野藤形藤貝司萩藤田場部口林藤田藤部田橋瀬水藤木築田松田根藤岡	憲一茂博百幸秀健和悦幸満紀懐健太民重二重敏善幸芳竜政俊洋一茂子男雄郎清男博徳勇明剛樹	明夫弘晃子雄保一健子広子男開也子一志郎雄吉男行雄宏雄幸雄彦美郎茂子男雄郎清男博徳勇明剛樹	樹安横鈴須秋鈴黒葉相清荒鈴会平石山大滝松山布堀黒矢武菊遠沼今永浅伊斉推川武武鈴高釣魚	谷藤沢木貝葉木木賀沢野井木田松山口宮口田田施川田萩田地藤沢野田野藤藤名田田木嶋持谷	賢則義美和国一啓徳哲泰善敬雄洋君正佳啓和武和芳遠文智芳正浩充俊恵代博	治男勇則子美雄洋字一司夫夫一忍二子雄志樹子義已弘章栄也典夫淳朗剛已幸一聡巨一子正幸
---	-------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------	---	---	--	--	--	---	------------------------------------	---

□育成指導員

〈新規〉

長井市	梅津和士	河北柔道
白鷹町	橋本吉明	河北柔道
上山市	長沢雅人	河北柔道
山形市	安孫子平	舟形
河北町	奥山敏夫	福原スキー
酒田市	吉村繁薫	上柳スキー
朝日村	上野	常盤剣道

〈更新〉

新庄市	奥山康夫	福原スキー
山形市	遠藤繁光	福原スキー
山形市	海老名清二	福原スキー
鶴岡市	村田久忠	福原スキー
朝日村	佐藤利浩	駒籠
平田町	後藤尚義	駒籠
朝日町	川口幸男	福原サッカー

柴石後浅増鈴国生笹菅渡伊加青星三福石	崎山藤黄川木分田原野辺藤木川浦井川	美伊純弘将茂秀智吉正和正智康琢文祐	枝織隆一樹治行治也則愛男一昭宏透也人也
--------------------	-------------------	-------------------	---------------------

□中央リーダースクール

〈シニアコース〉

長井市柔道	木崎慎吾
青葉剣道	富樫貞皓
中部地区剣道	寒河江秀明
吉島地区剣道	高貫和仁
地北卓球	酒井賀世子
城北卓球	畑田博子
青葉剣道	

□山形県ジュニアリーダースクール

山形チビッコボクシング	長谷川知宏
山形チビッコボクシング	菊地茂寿
中部地区剣道	寒河江秀明
中部地区剣道	長沢昌幸
城北卓球	佐藤友子
城北卓球	菅原幸子
福原サッカー	安達大輔
福原サッカー	斎藤巨



平成元年度 山形県スポーツ少年 団表彰

功労者と 優良団体

●功労者

高内 義博(山形市)正野 治子(高島町)
大江 洋三(西川町)馬場 祐吉(白鷹町)
植松 運弥(東根市)松浦 文夫(鶴岡市)
高橋 正信(鮎川村)池田 健吉(余目町)

市長村の動き

▼朝日村▲

本村には、最近新規団二団(朝日空手道・朝日ベースボール)を加え、計九単位団がある。団員数三百七十三名、指導者数九十三名が各団の母集団と共に、継続的な活動を展開し、交流試合・野外活動等に取り組んでいる。

特に、指導者協議会では独自に他町村との合同研修会はじめ、スポーツ傷害・トレーニング法等各種研修会を開催し、資質の向上に努めている。また、「べにばな国体」に向

●優良団

坂田喜一郎(川西町)
蔵正スキースポーツ少年団 (山形市)
中山ミニバスケットボール (中山町)
スポーツ少年団 (西川町)
月山スキースポーツ少年団 (西川町)
おもだか柔道スポーツ少年団(尾花沢市)
神町ベースボールクラブ (東根市)
スポーツ少年団 (高島町)
亀岡スポーツ少年団 (栗原市)
北部野球スポーツ少年団 (栗原市)
湯野浜サッカースポーツ少年団(鶴岡市)
浜田陸上スポーツ少年団 (酒田市)
余目四小女バレーボール (余目町)
スポーツ少年団 (朝日村)
朝日剣道スポーツ少年団 (朝日村)

けて練習にも熱が入り、さらに、デモスポ行事「ウォークラリー」の会場となるため、スポーツ少年団も、村スポーツ大会や村行事で積極的な協力態勢をとっている。



▲親子でウォークラリー

平成2年度 山形県スポーツ少年団行事予定

	事業名	期日	会場
大会関係	・第12回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会県予選会 ・第26回山形県スポーツ少年大会 ・全日本少年サッカー大会予選会	6月24日、7月1日 7月28日～7月30日 6月17日、7月1日	中山川町 山形市 酒田(7月)
	・山形県少年少女スポーツ交流大会	9月30日	山形市
関係	・第21回東北ブロックスポーツ少年大会 ・第26回全国スポーツ少年交歓交流大会 ・第14回全日本少年サッカー大会 ・第12回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 ・第12回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会西ブロック大会 ・第12回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 ・第10回東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会	7月25日～7月28日 8月2日～8月6日 7月30日～8月4日 7月29日～7月31日 7月29日 8月15日～8月19日	福島 福島 東京 宮城 宮城
	・第13回全国スポーツ少年団競技別交流大会	7月下旬～8月上旬 12月中旬 3月下旬	宮城 宮城
	・卓球 ・剣道	3月26日～3月29日 3月29日～3月31日	東京 東京
	・認定指導員養成講習会 (県内5地区)	6月23日～6月24日 12月8日～12月9日 11月10日～11月11日 11月24日～11月25日 12月15日～12月16日 10月中旬 11月10日～11月11日	山形 山形 山形 山形 山形 山形 山形
関係	・体力テスト判定員講習会 ・県ジュニアリーダースクール ・県指導者研修会 ・市町村スポ少ポ安事務担当者研修会 ・育成母集団研修会	3月中旬 3月7日～3月8日 5月～2月	山形 山形 山形
	・中央リーダースクール(シニア) ・育成指導員認定研修会 ・認定指導員養成講習会 ・公認体力テスト指導員養成講習会	8/17～8/20、3月 11月3日～11月4日 11月4日～11月7日 11月16日～11月18日	山形 山形 山形 山形
交流	・地域交流促進事業	5月～2月	山形
	・第17回日独スポーツ少年団同時交流	8月5日～8月10日	山形
会議	・県スポーツ少年団表彰	3月中旬	山形市
	・県スポーツ少年団代議員会 ・県スポーツ少年団第1回本部員会 ・県スポーツ少年団第2回本部員会 ・県スポーツ少年団専門委員会 ・県スポーツ少年団指導者連絡協議会	5月14日 6月1日 2月中旬 6月12日	山形市 山形市 山形市 山形市
	・全国指導者協議会 ・東北ブロック指導者研究協議会 ・北海道、東北ブロック会議	7月6日・7日 12月上旬 2月中旬	山形市 山形市 山形市